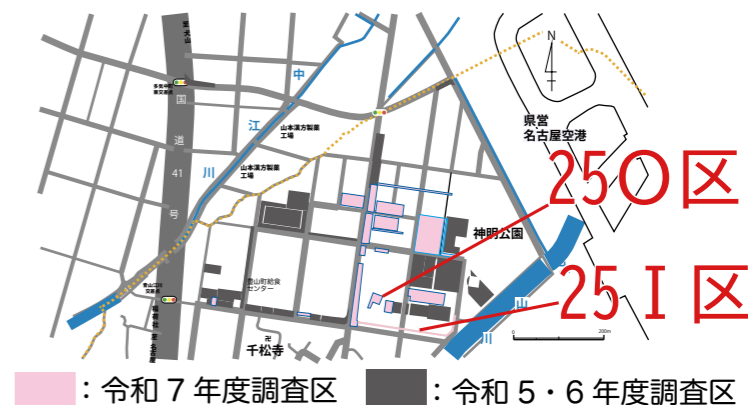




青山神明遺跡 発掘だより 16号

令和 8年 3月 27日

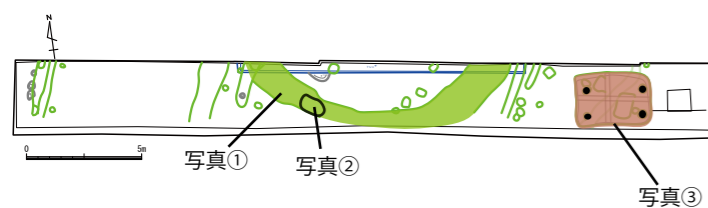


◆ 25 I 区・O 区の発掘調査成果

I 区・O 区は調査区南東側に位置しています。I 区たてあなの主な遺構として Id・Ie 区からはたてあな、しゅうこうぼ、土坑、溝が確認されました。

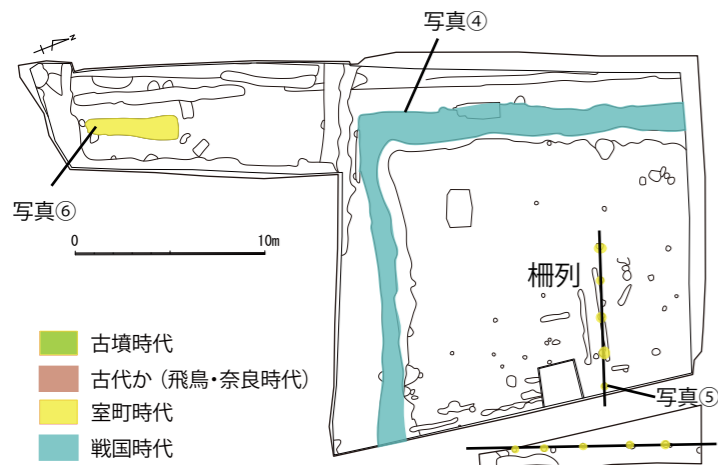
竪穴建物跡は調査区の南東側で確認され、形は隅丸の長方形をしています。大きさは約 2.5 × 3m です。遺物が伴っておらず時期を確定するには検討が必要です。周溝墓は一部調査区外に延びており、竪穴建物跡同様に遺物が伴っていませんでした。土坑は周溝墓と重なるように確認され、土坑からは古墳時代中期（約 1600 年前）の須恵器の杯蓋つぎふたが出土しました。色々検討したところ、I 区周辺の周溝墓は古墳時代中期の古墳である可能性が出てきました。

青山神明遺跡 25Id 区遺構図



写真① 周溝墓完掘状況

青山神明遺跡 25O 区遺構図



写真② 土坑遺物出土状況（古墳時代）



写真③ 竪穴建物跡完掘状況



写真⑤ 永楽通宝出土状況（室町時代）



写真④ 区画溝完掘状況（戦国時代）



写真⑥ 土坑墓遺物出土状況（室町時代）

25 I 区・O 区位置図

O 区さくれつの主な遺構として戦国時代の区画溝が 1 条、柵列が 2 列、土坑墓が 1 基確認できました。区画溝は調査区東側で東西方向に延び、調査区南西側で南北方向に折れ北側に延びていきます（遺構図参照）。遺物かいゆうこしらは灰釉小皿が出土しました。柵列は柱穴が東西方向と南北方向に 5 基ずつ並んでおり、そのうち東西方向の柱穴からはえいらくつうほう（室町時代の渡来銭）が出土しました。土坑墓は調査区南側で確認されました。隅丸の長方形の形をしており室町時代の灰釉四耳壺や鉄釉瓶子などが見つかりました。

